

グローバルにいがた @世界の街



シンガポール

月曜掲載



小さな国に多文化共存

「サンキュー」「^{シエシエ}謝謝」「トウリマカシイ」「ナンドウリ」(いずれもありがとうの意味)。駅の放送を聞いているだけで、たくさんの言葉が聞こえてきます。

私が暮らしている国はシンガポールの国です。面積は約720平方キロ。といっても、どのくらいかピンとこない方が多いのではないのでしょうか。

新潟県民にとってなじみ深い佐渡島より一回りほど小さく、その気になれば、自転車に乗って1日で1周することができます。この小さな国に、佐渡島の約120倍

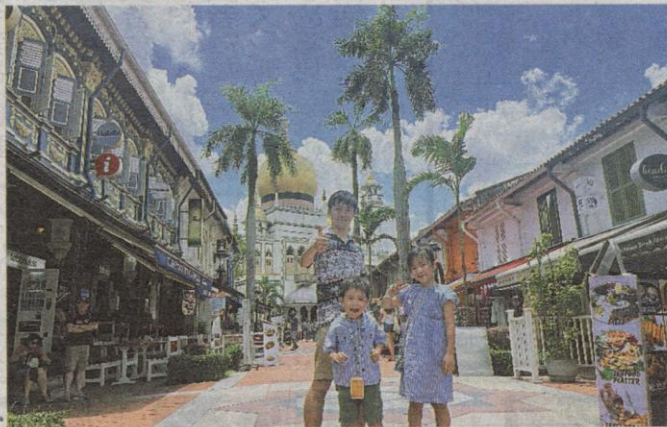
長谷川 郁貴さん

新潟市秋葉区出身

の約600万人が暮らしています。少しイメージがきたでしょうか。

歴史的な背景から、公用語は英語、中国語、マレー語、タミル語の四つです。そして驚くことに、全人口の約30%が外国人です。

街を歩くと公用語以外にもさま



ざまな言葉が話されており、服装や習慣も多様であることが分かります。

街並みも多様で、マリーオンや、マリーナベイサンズ等の近代的な建物のある駅から一駅移動するだけで、インド人街、中国人街、アラブ人街に行くことができます。一つの国にいながら小さな世界を旅しているような感覚を覚えます。

この国に来て一番驚いたのは、多くの文化が混ざっているのに、お互いを尊重していることです。フードコートにはハラールやベジタリアン向けメニューがあり、街中にはイスラム教の礼拝室が用意されています。

イスラム教の断食明けのお祝い「ハリラヤ」、キリスト教の祭日「クリスマス」、ヒンズー教のお正月「ディパバリ」、華人社会のお正月「春節」等は祝日になっています。

家族で訪れた異国情緒漂うアラブストリート

す。

世界にはそれぞれの国や地域、人々に「当たり前」があり、自分の当たり前は他の人にはそうでないことに気付かされます。

この国にいらると、私が大好きな「イツ・ア・スモールワールド」の歌詞が思い浮かびます。最後にその歌詞を載せて記事を閉じます。「世界中誰だってほほ笑めば仲良しさ みんな輪になり手をつなごう 小さな世界 世界は狭い世界は同じ 世界は丸い ただ一つ」

(長谷川さんは新潟市秋葉区出身。1990年生まれ。2023年からシンガポール日本人学校小学部クレメンティ校に赴任中です)

海外で暮らす本県関係者が現地の様子を紹介します。ウェブサイトに新潟日報デジタルプラスにも掲載。執筆希望も受け付けています。

